

令和元年度 記者懇談会（第9回）の記録

日 時 令和元年12月24日（火）午後3時30分
場 所 水道庁舎4階 会議室
記者数 7人
同席者 飯川副市長、若山副市長、総務部長、市民サービス課長
次 第 1. マイキーID設定支援の開始について
2. その他（質疑応答）



マイキーID 設定支援の開始について

説明内容

(市長)

国では、令和 2 年度にマイナポイントを活用した消費活性化策が実施される予定です。

これは、ポイントの申込条件を満たし、IC カードへの電子マネーチャージやスマートフォンでの QR 決済を行うと、その金額に応じて国からマイナポイントが付与されるというものです。

マイナポイントは、マイナンバーカードを活用した全国共通のポイントであり、ポイントが付与された IC カードや QR 決済などにより、店舗やオンラインショップでの買い物に利用できます。

現在のところ、25%のプレミアム率が想定されています。

この事業で皆さまがマイナポイントを利用するためには、まず、マイナンバーカードを取得すること。

その後、マイキープラットフォームのサイトやスマートフォン用アプリで、マイキーIDを設定する必要がありますので、インターネット環境のない方が利用するのは難しいのではないかと思います。

そこで、岩見沢市は、パソコンやスマートフォンなどのインターネット環境がない方でもマイナポイントの事業を利用できるように、1月からマイナンバーカードをお持ちの方を対象にマイキーIDの設定支援のための窓口を開設します。

期間は、1月6日から再来年3月までを予定しています。

場所は、市役所本庁の市民サービス課や北村・栗沢両支所、有明交流プラザサービスセンターのマイナンバー交付申請窓口に併設する予定です。

なお、市民サービス課では、平日の業務時間に加え、毎月第2日曜日の午前中や、第3水曜日の午後7時まで、休日や夜間にも窓口で対応させていただきます。

さらに、問い合わせが今後増えることが予想されますので、マイナンバー専用ダイヤル 24 局の 7588 を 1 月に開通します。

マイナポイントの事業が本格的に開始されると、窓口が大変混雑することが予想されますので、なるべく早い段階での手続きを呼び掛けていきたいと考えておりますので、よろしくをお願いします。

また、岩見沢市におけるマイナンバーカードの普及率は 12 月 1 日現在で 12.7%であり、引き続き、マイナンバーカードの交付や申請の支援も行っています。

質疑応答

なし

その他

質疑応答

東京五輪・パラリンピックの事前合宿の受け入れについて

(HBC)

東京五輪マラソン・競歩の札幌開催を受け、岩見沢市も事前合宿を受け入れる意向があるとのことですが、その狙いを教えてください。

(市長)

岩見沢の未来を担う子どもたちをはじめ、市民とトップアスリートの有意義な交流ができると考えています。市議会でもお答えしましたが、これまでの経過を改めてお伝えしますと、東京五輪マラソン・競歩の開催地を札幌に変更するというニュースが流れた翌日に札幌で、北海道市長会の総会がありました。

その際、札幌の秋元市長から「自分も驚いているが、開催地の変更が決定された場合、事前合宿も含め、道内各都市の協力をいただきたい」という要旨の挨拶がありました。それを受けて、各都市では検討が進んだと思っています。

岩見沢市はこれまで、車いすラグビーや車いすフェンシングの合宿を受け入れ、車いすラグビーの全国大会も開催されました。このような経緯から、「ホストタウン」への応募もしましたが、事前の招致国が決まっていなければ認定されないということでした。

それで、かねてから取り組んできたパラリンピックの事前合宿の誘致、その延長として、五輪のマラソンと競歩、当初から予定されていたサッカーの事前合宿を受け入れる意向があることを道に伝えました。さらに、事前合宿には練習環境が必要ですから、室内練習場やコースの設定などについて、岩見沢市陸上競技協会や北海道教育大学岩見沢校と協議を行っています。また、各競技団体やこれまで事前合宿を受け入れた実績がある自治体に照会しています。

道庁からの具体的な情報提供はまだありませんが、引き続き、環境整備と誘致に向けて取り組んでいきたいと考えています。

(HBC)

我々が取材する中で、事前合宿を受け入れる意向を表明した自治体が道内各地にあり、特に空知管内にはそのような自治体が多いのですが、岩見沢市は、こういった点をアピールポイントにしますか。

(市長)

アクセスに恵まれている点です。開催地である札幌市や新千歳空港から近いという優位性により、岩見沢市が事前合宿地として適していると考えています。現在は提案資料を煮詰めている段階です。

(HBC)

練習環境として、北海道教育大学岩見沢校の第3体育館やトレーニング設備などを含めて考えられるということですか。

(市長)

そうですね。それに向けて、「オール岩見沢」として協議を進めています。

(HBC)

どのようなチームが来るという具体的な話はまだありませんか。

(市長)

その打診はまだありません。五輪の事務局から、まずは都道府県にそのような情報が届くという流れになっています。また、東京でも情報収集を行っているところでもあります。

(HBC)

事前合宿が決まった場合、市民と選手の交流は何か考えていますか。

(市長)

市民と選手の交流が、東京五輪・パラリンピックの後も続くことが重要なことの一つだと思います。

また、市民にトップアスリートの姿を見ていただくことは非常に意義のあることです。

ただし、あくまでも「アスリートファースト（選手第一）」ですね。選手は事前合宿で体調を整えて本番に臨むわけですから、各国の競技団体と調整しながら取り組みたいと思います。

今年の振り返りと来年に向けた抱負

(北海道新聞)

今年最後の記者懇談会になりましたが、今年1年を振り返って、特に記憶に残っている話題にどのようなものがありますか。さらに、来年に向けた抱負をお願いします。

(市長)

今年1年を振り返れば、やはり『スマート農業』の分野が中心になるかもしれません。6月28日、NTTグループ3社、北海道大学と岩見沢市による協定が結ばれました。その内容が世界トップレベルのスマート農業の実現とサステイナブルなスマートアグリシティの構築を目指すという協定です。この協定を結び、取り組みが進んだことが一番大きなことだと思います。その内容はこれまでの記者懇談会などでもお話ししましたが、5Gを使った映像伝送実証試験は世界で初めて当市で行われました。今後の展開も含めて、各方面にいろいろな提案をしているところです。

もう一つ、11月の『岩見沢アール・ブリュット芸術祭2019』ですね。市単独で開催しましたが、非常に良い機会になったかと思います。これまで過去3回、今年は4回目でしたが、道内でのアール・ブリュットに対する機運が盛り上がってきたように感じます。また、いろいろな場所で作品を鑑賞していただ

く機会を作ることにより、アール・ブリュット作品に対する市民の関心も高まってきたということが率直な感想です。このことを通して、今後、共生のまちづくりを進めていく上での大きなステップになったのではないかとということにも考えています。

さらにもう一つと言えば、新庁舎の建設がいよいよ始まったということでしょうか。11月27日に安全祈願祭が行われて、いよいよという雰囲気になりました。来年2月ごろから、市民の皆さまにも工事の様子がおわかりになる状況になります。何よりも防災拠点としての機能を十分高め、維持していくほか、新庁舎を作ることが目的ではなく、新庁舎が完成した後に市民サービスをいかに高めるかということに向けて、さらに内部協議を進めています。また、時代の動きとして、Society5.0ということがさかんに言われています。その一方で社会の現象として、2020年以降には団塊世代が後期高齢者世代になると言われていますが、それよりも一番問題になってくるのは、2040年に団塊ジュニアが高齢者になるというときにどのような行政サービスを展開する基盤を作っていくのか。こういったことも念頭に置きながら、Society5.0に向けたスマートシティ、スマートアグリシティの構築も含めたサービスの高度化を、新庁舎を中心に行いたいと思います。

(北海道新聞)

来年力を入れる取り組みとして何がありますか。

(市長)

スマート農業では各方面に新たな提案をしているところで、いろいろと新しい取り組みを進めていくことになります。北海道大学 COI「食と健康の達人」拠点プロジェクトでも新たな取り組みや評価が始まると思います。そして、Society5.0への対応をしっかりと進めていきたいと思ひますし、進めなければならないとも思っています。

(読売新聞)

来年9月に任期満了を迎えることについて、どのようにお考えですか。

(市長)

任期の有無に関わらず、新年度予算の編成は重要な作業です。今年も財政課への予算要求資料が出揃い、国の補正予算を含め、いろいろ固まっていますので、国の事業に積極的に取り組みながら、いかに事業を構築していくかということを中心に考えたいと思います。

私の持論ですが、市民生活の質をどのように高めていくのか。地域経済の活性化をどのように図っていくのか。これらと併せて、人口減少にも対応するため、現在、第1期総合戦略の総括と並行して予算を編成しています。総合戦略の検証をしっかりと踏まえた上でどのように予算に反映させていくのか。そのときに、人口論だけに帰結するのではなく、岩見沢市にとって「成長」や「相乗効果」といったキーワードを念頭に置いて予算編成を進めていきますので、来年の任期満了については今のところ何ら考えてはいないところです。

(注) 記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。(作成：岩見沢市秘書課広報係)